

## 第4回 青森県人づくり戦略推進会議会議録

日 時：平成22年9月8日（水）

14：00～15：30

場 所：青森国際ホテル 2階 春秋の間

（司会：県人づくり戦略チーム 秋田チームリーダー）

それでは御案内の時刻となりましたので、ただ今から第4回青森県人づくり戦略推進会議を開会いたします。

開会にあたり、本会議の議長である三村知事より御挨拶を申し上げます。

（三村知事）

皆さん、こんにちは。

まあ今日はだいぶ涼しいような感じがしますが、本当に厳しい夏でございます。大変、そういったお疲れ、またお忙しいところを、第4回青森県人づくり戦略推進会議に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、常日頃から県政の推進にあたり、格別の御理解・御協力をいただいておりますことにも感謝を申し上げたいと思います。

本日は、当会議に設置いたしました「産・学・官・金融連携促進検討部会」における検討結果について、部会長を務めておられます八戸工業高等専門学校の井口校長先生から御報告をいただくこととなっております。井口部会長、そして部会員の皆様方に、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

また、今日、元気なというか若いゲストを二人お呼びしています。青森高校の多田くん、藤田さんであります。二人は福岡県で先般、夏休みに開催されました「日本の次世代リーダー養成塾」に参加してくれました。体験したことや感じたことについて発表していただくことになっています。とても楽しみです。青森空港での次世代リーダー養成塾の壮行式にも駆けつけましたが、本当に我々の次の世代、若い方々それぞれがきちんとした思いを主張し、それをまた実行していくためどう努力をするかということ等をそれぞれに持っていて、本当に「おー、いいな」と感じました。今日の発表を楽しみにしていました。

さて、話をまた戻しますが、長引くデフレ、そして急激な円高の進行、そしてまたこのことによりまして雇用環境の悪化など、私ども日本国を取り巻く社会、経済情勢は依然として閉塞感や不安感が拭いきれない状況と思うところでございます。こうした時代にあつて、私はこれまで県民の暮らしの安定を願い、自主自立の青森県づくりに全力で取り組んできました。この自主自立の青森県づくりを進めていく上で、何よりも大切、重要と考えておりますのは、その基盤となります人の財（たから）、いわゆる人財であります。そう強

く思っております。

昨日、新幹線の開業ダイヤが発表となったわけですが、12月4日に全線開業します。あと87日。こういったまたとない機会をとらえて、我々青森の持つ強みを活かし、青森県の元気をつくっていくと。こういった場面においても、実は人、今ある人、そしてこれからの、今日来てくれているような若い人財、そういった方々がこういった活動をするのか、あるいはできるような仕組みがあるのかということ、このこと等を踏まえて我々としての未来を切り拓く人財の育成に全県一丸となって取り組んでいかなければいけないと思っている次第であります。

私ども青森県、いわゆる生存ということ考えた場合は水資源、食料資源、エネルギー資源、非常に豊かにあるわけでございます。しかし、この資源を持っていても、どう活かすか、その可能性を、我々がそういったコンテンツの可能性をどう伸ばすかと、そういった場面においては意欲を持った人財、何事も怖れずチャレンジしていく人財、イノベーションの心を持った人財、そういった人づくりということ、そしてまたそういうことが非常に未来に向かってのコツコツとした積み重ねの投資というものが、投資という言い方が失礼であれば人づくりのための仕掛け、仕組みを我々として積み重ねていくという行為そのものが非常に重要であり、その気運を盛り上げてこそ、現実の意味で青森県というものが元気になる、いい青森になったということに向かっていくと、そのように考えるところでございます。そのためのまさに段取りというものを、今日来て二人のような未来をつくる人財のために、我々はどのような段取りを、仕組みを残していけるのか、そのことが問われているとも考えております。

本日の会議を契機といたしまして、関係機関一体となって人財育成、青森の未来をつくっていく、そして今を築いていく、その人財育成に取り組んでいく、その気運を皆様方と共にさらに盛り上げ、青森県の飛躍を目指していきたいと、そう考えている次第でございます。

なかなかこの分野、積み重ね、成果が出ていくのは先々ということになるわけですが、今、きちんとした方向性と仕組みづくり、あるいは土台というものを整えること、そのことが私どもの、未来に対しての大きな責任であると自分自身も考えている次第でございます。

どうぞ本日の戦略会議、活発な御意見をいただきまして、またそれぞれに一つ心を新たに気運醸成、進んでいければと考えている次第でございます。

本日もよろしくお願いいたします。

(司会：県人づくり戦略チーム 秋田チームリーダー)

それでは、ここからの進行は知事をお願いいたします。

(三村知事)

それでは、次第にございますとおり、議事の1「産・学・官・金融連携促進検討部会報告」についてでございます。この部会は、当会議に設置された部会として、昨年の6月以来、人財の育成に向けた産・学・官・金融の連携のあり方などについて検討をし、報告書を取りまとめてくださいました。部会長を務められました八戸工業高等専門学校井口先生及び部会員の皆様には、改めて、御礼申し上げたいと思います。

では部会の報告を井口先生からよろしく願いいたします。

(八戸工業高等専門学校 井口校長)

それでは、部会長を務めさせていただきました私から報告したいと思います。よろしく願いいたします。

知事から御説明があったように、今日もここに部会の委員、非常にバラエティーに富んだ部会の委員から何回にもわたって議論をいただき、お手元の資料のようなものをまとめさせていただきました。

まずはじめに、事務局の方から概要を御説明します。

(事務局：県人づくり戦略チーム 奥田主幹)

事務局を務めました、人づくり戦略チームの奥田と申します。私の方から部会報告の概要について御説明させていただきます。

まず、検討の目的でございますが、本県を取り巻く環境が大きく変化する中にありまして、「あおもりの今」と「あおもりの未来」をつくる人財の育成について、産・学・官・金融が一体となって取り組むことが重要であるとの観点から、この人づくり戦略推進会議に産・学・官・金融連携促進検討部会を設置いたしまして、井口校長先生に部会長をお願いし、キャリア教育の支援、地域経済、地域づくりをけん引する人財の育成について検討をまいりました。

まず、キャリア教育の支援についてでございますが、キャリア教育が求められている背景といたしまして、終身雇用や年功序列などの雇用慣行が見直されてきたこと、雇用が多様化してきていること、ニートやフリーター、若者の早期離職の増加などが挙げられます。

また、全国調査ではございますが、若者の進路に関する意識について、この調査結果を見ますと、例えば自分の進路について不安を感じている高校生の割合が年々増加している、あるいは自分の将来への希望や意志を明確にできないことに不安を感じている生徒が多い、それから職業を意識した時期が遅い大学生ほど進学理由が消極的、こういったことが明らかになっております。

本県の高校生の就職の状況を見ますと、例えば新卒高卒者の就職状況、これはリーマンショックを境に厳しい状況になっていると。それから、新卒高卒者の3年目での離職率が高いといった傾向があります。

こういったことを踏まえまして、県では「雇用創出特別支援枠」の創出をはじめ、学卒未就職者や高校生就職支援対策などを重点的に実施しているところでございます。

次に、本県におけるキャリア教育の位置付けでございますが、平成19年に策定したおもりを愛する人づくり戦略、こちらの方で地域ぐるみの「生きること・働くことについて考える学習活動」の効果的な展開ということを目指しておりまして、ここでいう「生きること・働くことについて考える学習活動」というのは、文部科学省で言うところの「児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育」、キャリア教育とほぼ同じ意味で使っています。

産業・雇用分野が最大の課題である青森県は、とりわけキャリア教育に重点的に取り組んで、困難に立ち向かい、職業人・社会人として自立できる力を身に付けたたくましい人財を育て、社会へ送り出していくということが求められるということでございます。

従いまして、本県におけるキャリア教育は、「勤労観」や「職業観」といった概念的なものにとどまらず、文部科学省の中央教育審議会においてもキャリア教育について改めて審議されているのですが、ここでの経過報告によりますと、キャリア教育について「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」というふうに定義づけを新たにしようという動きもありますが、本県においてもやはりこういう、より具体的な認識を関係者が共有すべきではないか、としております。

そして、キャリア教育に関して、文部科学省でも今改めて定義づけを検討しているように、関係者の中で共通理解、キャリア教育とは何か、あるいは目指す姿とはどのようなものかといったことについて共通理解が得られているとは言い難い状況にあるということが当部会でも意見として出ておりまして、そういったことを踏まえまして、本県におけるキャリア教育の目指す姿として、「子どもたちが皆ふるさとを愛し、高校生の段階で、卒業後の進路選択において、職業上の具体的な目標を意識し、その目標に向かって取り組んでいる状態」、こういった状態を目指すべきではないかというふうにまとめております。

そして、キャリア教育を効果的に展開するために必要な機能といたしまして、情報の収集・集約・発信機能をはじめとして、ここにあります4つの機能について課題や今後の方向性を検討し、とりまとめたところです。詳細の説明は時間の都合もありますので省略いたします。報告書の方を御覧いただければと思います。

続きまして、産・学・官・金融の連携についてということで、まず産業界、学校、行政、金融機関に求められる役割をまとめておりまして、例えば産業界であれば、企業への普及啓発や情報発信などが求められる。それから金融機関であれば、取引先企業への地域の情報の紹介などが役割として求められる、としております。

そして、施策を進める上での考え方ということで、この地域主権の時代にありまして、自分たちの地域に必要な人財を自分たちの手で育てていくことについて考え、積極的に関与し、連携していくことが重要であるということで、またそのキャリア教育につきまして

は小学生から大学生まで対象が非常に幅広く、一律に成果を上げていくことは非常に難しいということで、例えば高校生を例に挙げますと、高校生を本県のキャリア教育の最重要ターゲットと位置付けて、関係機関が連携し、重点的に支援するとか、そういう対象や優先順位を考えていくことも必要ではないか、としております。

そして、キャリア教育について最後に、対象や優先順位を考えていくためには、本県なりのキャリア教育のビジョンの策定と、ビジョンに基づく関係機関の施策展開ということを考える時期にきているのではないか、ということでもまとめているところでございます。

キャリア教育については以上でして、続きまして地域経済、地域づくりをけん引する人財の育成についてということで、こちらについては県の方で平成20年度から実施しております「あおり立志挑戦塾」の取組をモデルケースとしながら検討を進めたところです。塾長は野田一夫先生、財団法人日本総合研究所理事長、多摩大学名誉学長であります。

塾生は県内の20代後半から30代を対象に、今年度も含めると3年間で72名が受講しております。毎年5月から10月にかけて、毎月1回、土日、1泊2日で年6回開催し、講師による講話とグループディスカッションを行っております。

こちらが、これまでお招きした主な講師の方々です。平松守彦前大分県知事をはじめ、県内外から著名な講師の方々をお招きしております。

塾の成果といたしましては、同世代の仲間との交流や塾長・講師の講話に刺激を受け、塾生の意識が向上したこと、多様な人財ネットワークが形成されたこと、修了生がOB会「あおり立志挑戦の会」を自主的に設立し、塾の運営支援に取り組むこととなったことなどが挙げられます。

塾につきましては、これまで県直営で行ってきたのですが、今年度から青森公立大学、それから県、あおり立志挑戦の会の3者により「あおりリーダー育成プラットフォーム」を設立いたしまして、こちらが運営主体となっております。現在は3者の参加となっておりますが、将来的には県内の様々な企業、団体等の参加も期待されるということでございます。

そして、こうした地域をけん引する人財の育成にあたりまして、各機関に求められる今後の課題といたしまして、まず立志挑戦塾に関しては着実に成果が上がっており、また地域のリーダーを育成していく上で非常に有意義な取組であるといったことで、継続して取り組んでいくことが必要であることから、「プラットフォーム」の自立に向け、安定した運営財源の確保など、関係機関の適切な役割分担についての調整が必要であるとしております。

また、各機関に求められる役割についても、御覧のとおり整理しているところであります。例えば産業界であれば、将来的なプラットフォームへの参加が期待される、あるいは行政、県であれば、プラットフォームの自立に向けた連携の推進役といったことが期待されるとしております。

また、立志挑戦塾のみならず、こうした地域をけん引する人財育成のためには、人口減

少でありますとかグローバル化の進展、こういった大きな環境変化の中で新しいことにチャレンジする地域のリーダーを育成することが、地域経済の成長の原動力であり、それがひいては業界や個々の企業、そして県全体の発展へとつながっていくということで、産・学・官・金融が連携して取り組んでいく必要があるとしております。

そして、そのために各機関に期待される役割を御覧のとおり整理しております。例えば大学であれば、産業界と連携し、地域のニーズを踏まえた人財育成に積極的に関与するとか、こういったことが期待されるということでまとめております。

最後に、事例として紹介しておりますのが八戸ビッグバレーの取組でございます。御存知の方もいらっしゃるかと思いますが、八戸市出身の起業家の呼びかけによりスタートしたもので、起業や経営革新などを目指す人たちが集まり、新たなビジネス展開などを通して地域を元気にしていこうという取組で、こうした取組が県内各地で展開され、青森県の未来を切り拓くチャレンジャーが次々と輩出されることを期待したいということで報告書の方ではまとめております。

事務局からは以上でございます。

(八戸工業高等専門学校 井口校長)

どうもありがとうございました。

ただ今の御説明で、ほとんど言い尽くしているのですが、このキャリア教育については、実は昨日、青森高等教育機関懇談会を青森中央学院大学で、この中でも何人かご出席されていたのですが、そこでもキャリア教育の大切さということで、集まったのは大学学長が主体だったんですけども、ここでまとめたように、やはり小中高、そして地域、家庭も一緒にし、そこに産・学・官・金融連携で行わなければいけないという意見が出ておりました。

それから、やはり、何をやるにしてもリーダーが必要だと。このあおり立志挑戦塾、今日、公立大学の香取先生がおられますので後ほどの質問ではお答えいただけると思えますけれども、今年度は「あおりリーダー育成プラットフォーム」の構成としての3者の中に、20年、21年度に受講した塾の修了生たちが参加するというようなことになっておりました、いろんな点で今後期待したいと思えます。

私から、以上でございます。

(三村知事)

ありがとうございました。

それでは、せっかくの機会でございます、御質問・御意見等いただければと思えます。香取先生お願いします。

(青森公立大学 香取教授・地域研究センター長)

せっかくの機会でございますので、是非お伺いしたいなと思います。

キャリア教育の支援をどんどんこれから進めていくということで、そういう進めていく上で県の教育庁としてキャリア教育の方針というものが明確にされているのかどうか、そのことについてお伺いしたいと思いました。

(三村知事)

なるほど。それでは教育長からお願いします。

(橋本教育長)

大変厳しい御指摘だというふうに思います。県としては、キャリア教育の全体的な方向性についてつくっているわけですが、そういう指針としての具体的なものは、完成版ということではできておりませんが、それぞれのところでキャリア教育としての取組というのはみられているところで、今後、小・中学校をつなぎながら、ということで1つの課題となっておりますので、実は、来年度に向けて少しそのところを検討しなさいという指示を出しているところでございます。

(青森公立大学 香取教授・地域研究センター長)

どうもありがとうございました。

(三村知事)

鈴木委員、お願いします。

(青森県文化振興会議 鈴木専務理事)

12のスライド番号のページをお開きください。ここで地域主権の時代、自分たちの地域に必要な人材を自分たちの手で育てていくことについて考え、積極的に関与し、連携していくことが重要とあります。

そこで、私は民間ですから、今、官の方の考えは分かりませんから、民間人として考えるというと、実際、じゃあ地域の状況は、例えば、3年くらいかかって東大に入りました。が、簡単に言えばついていけないということでしょうね、学校を辞めました。これが1つの例。

それから、今度、小学校でものすごい利口な子どもがいて、朝、私が出勤をする時に、道路を歩いていけば必ず挨拶をして、それから何か話しかけて、その子どもがさっさと学校へ行くわけだから、私と距離が離れるでしょう。別れる時にちゃんと手を振って挨拶をしていくんですね。こういう立派な子どもがいる。

この2つの例を考えると、立派な子どもの場合は、私はいろいろ、まあ干渉とい

うほどではないにしても、「気をつけて登校しなさいよ」と、「車に気をつけなさいよ」と、こういうことを言っているんですよ。でも、今の東大に入った方がそうして辞めてきた場合に、例えばだよ、今の地域でもって積極的に関与し、それから連携をしていくととっても、これはね、まあ民間だからここまで考えなくてもいいと思いますけれども、非常に難しい課題ではないかと思います。

以上です。

(三村知事)

御提言としてということになるのでしょうかけれども。

どなたか、何か、今の鈴木さんのお話に対して。井口先生、お願いします。

(八戸工業高等専門学校 井口校長)

まさしく、御指摘のこと。私どもは座学だけで優秀だとか、頭でっかちな子どもをつくらないということが産・学・官・金融連携と地域・家庭だと、そう思っております、各地域の教育委員会でどんな行事をやっているか、いろんな大学がどれだけやっているか、商工会もどうしているか、いろんな人づくりをやっているんですね。ただ、それがやはり姿が見えてないようなところもある。育てたら中央に行ってしまう、今度は戻ってくる場がない。だからこそ知事をはじめ、我々もですけれども、やはり働く場をつくと。それで頭でっかちの人が良いというわけではないんですけれども、教育界はある程度座学でもそういう優秀な人を受け入れていますので、そういうところに戻ってきていただくと。もっと、やっぱり人間力というものをこれから皆でやらなくてはいけないと、そう思っております。

(三村知事)

人間力という、非常にいい言葉だと思います。人間力をどう高めていくかということと一緒に進めたいということでした。

鈴木さん、いかがですか、よろしいですか。

それでは、柳沢さん、お願いします。

(NPO推進青森会議 柳沢常務理事)

NPO推進青森会議の柳沢と申します。

キャリア教育のところですが、やっぱり大人たちがどうやって本気で子どもを応援するかというのが多分すごく大事だと思っていて、例えば私たちの活動の中で1つ現実的に年が明けてお呼びする人たちに、三重県の多気町の高校生レストランをやっている方が生徒さんも連れて、それを指導している調理科の先生も連れて、それをつなげた行政の方も4人セットで来ていただけることになって、是非この機会を地域の職業学校に限らず高校生



の子どもたちに是非一緒にお話を聞いたりする場を作りたいなとすごく思っているんですけども、この9ページのところに、「学校を中心に関係機関が連携をして」と書いてありますけれども、こういう授業というか案件を、現実的にどこに行き行って相談をしたらいいのかなというのがいつも迷うんですね。

簡単に、ただ記者クラブに投げ込みをすればいいのかという問題じゃなくて、本当にやっぱり高校や教育委員会の方とか、そういう方と一緒にこの取組をしたくて、是非いい機会です、生の、本当に将来を見据えて頑張っている、自分の職業を見据えて頑張っている子どもたちの声を青森の高校生にも聞かせたくって、そういうのをどこに持っていけばいいのかというのをすごく知りたいというか、そういう場がこれからできていくのか。「今の段階ではここにご相談していただければいいですよ」とかというのがあればちょっと教えていただきたいのですが。

(三村知事)

よろしくをお願いします。

(橋本教育長)

県立であれば教育委員会の方で全て所管しておりますし、私立であれば千葉校長先生、今日いらっしゃっておりますが、県としては、所管は総務学事課というところなんですけど、このことにつきましては人づくり戦略チームの方でもお受けできるのではないかと思います。

先ほどの事例の相可高校さんのようなことは本県でも百石高校で、あそこまで本格的にはなっていないけれども、かなり充実して本県の専門高校ではいろいろな形で地域の方となつて頑張っておりますし、最近では普通高校でもいろいろなプロジェクトを地域の方々と共に立ち上げて、非常に活躍がみられているところなので、また機会があれば御報告させていただきますと思います。

(三村知事)

では少しうちの事務局、秋田くんの方から。

(事務局：県人づくり戦略チーム 秋田チームリーダー)

今、橋本教育長がおっしゃったとおりです、教育の第一線というのはもちろん教育庁、あるいは学校でございますけれども、私ども人づくり戦略チーム、大きな人づくりという窓口を担っておりますので、何か迷ってどこに行けばいいか分からないということがございましたら、私どもの方を尋ねていただければと思います。日頃から教育庁の関係課ともやり取りをしておりますので、おつなぎするものはおつなぎいたしますので、よろしくお願いいたします。

(三村知事)

人づくり戦略チームの門は常に開かれているということで、よろしく御活用いただければと思います。

その他、どなたか。千葉先生。

(青森県私立中学高等学校長協会 千葉会長)

さっき三重県の話が出ましたので。私の学校にも調理科があり、いろいろなことをやっ  
ていて、なかなかあそこまではいけないのですが、八戸ポータルミュージアム「はっち」  
が来年の2月に完成いたしますので、私どもの学校でもそういうふうなことに少しタッチ  
して、お迎えをする人たち、あれは観光に関する建物でございますかね、「はっち」だけ  
ではないのですが、ああいうところで生徒たちが県の食材を使ったりしてお客様をお迎えす  
る、そういうことはしようと、今考えておるんでございます。

どんなことができるかまだ分かりませんが、やろうということだけは考えており  
ました。

(三村知事)

千葉先生、ありがとうございました。

キャリア教育の関係ですが、PTA連合会の方はいかがですか。

(青森県PTA連合会 飯田会長)

私の方は、小学校、中学校の父母で構成されていますので、子どもがまだ小さいという  
ことで、まだまだ職業に対しては意識が低いかもしれませんが、小学校、中学校というこ  
とでやはり市町村の教育委員会の方の意識によるのかなと思っていました。私は平内町な  
んですけれども、小湊小学校、中学校さんの方から、実は私は肉屋をやっています、毎  
年子どもたちの職業訓練ということで4～5人でしょうか、2～3時間、少しでも商売の  
ことのお話をしたり、例えば「肉屋で使う機械等の説明をしてもらえませんか」というこ  
とで毎年やっています、非常に平内町では教育委員会さんとか学校の意識が高いなと思  
っていました。

私の方の青森県PTA連合会の方でも、実はキャリア教育というのは非常に大事だとい  
うことで、保護者の学びとか啓発ということで、まあ去年の話なんですけれども、報告と  
して出させてもらいましたけれども、去年、教育委員会さんからのキャリア教育の実態と  
いいますか、そういうのを聞きながら勉強をしたわけでございますけれども、その結果、  
子どもたちの多くが自分の個性とか適性を考えて、職場体験ができること、学習機会の場  
を望んでいるということが分かりました。親以外の大人と関わることも本当に意義がある  
ということでございます。

しかしながら、親がそういうふうにも考えても、やはり学校がキャリア教育にいっぱい時

間を取れるわけでもないので、いろんな面で学校との調整とか連携が大事ではないかなというふうな去年の話し合いになりました。

以上でございます。

(三村知事)

学校との連携が大事だという話がありました。他にいかがですか。では、会議所の方から、お願いします。

(青森県商工会議所連合会 出町事務局次長)

今の御発言と関連があるかどうかわかりませんが、経済界としてもインターンシップの受け入れなどで、キャリア教育には積極的に御協力を申し上げていきたいと思うのですが、建設会社の社長さんが、建設重機とか運転の資格の免許を持って就職をした子、いっぱい資格を持って就職をしたんだけど、なかなか職場のコミュニケーションがとれないで、まあ社長さんも一生懸命になってコミュニケーションをとるように改善をしていったんだけど、2年、3年経つと辞めていくというお話を聞きまして、先ほど、井口先生から人間力という言葉が出ましたけれども、この人間力というのは考える力というんでしょうか、いっぱい知識があってもダメでありまして、知識をどうやって使っていくかという、そういう考える力というのが必要だと思うんですよ。

そこで、学校教育の中で考える力をつけるということも大事だと思うのですが、やっぱり基本は家庭ではないかなと。学校に何でも預けるんじゃないで、一番身近にいるのは親御さん、ご兄弟のわけですから、一番その子どもの性格が分かるわけですから、何かあったら一つずつ、なぜそう思うのか、なぜそう答えるのか、そういうことを常日頃問い掛けをしていくようなことをすることで、次第に考える力というんでしょうか、人間力というんでしょうか、そういうものが培われていくんじゃないのかなと思います。

(三村知事)

家庭のがんばりもということで今、お話をいただきました。では、前田さん。

(青森県社会福祉協議会 前田会長)

県社協の前田でございます。

今、家庭の問題もちょっと御発言がありましたので、関連して申し上げたいと思います。

県社協とすれば、今日の資料6にもありますけれども、市町村社協の取組などあります。私ども、地域を回ってみますと、新聞紙上等の報道でも、小中高の学校でなぜか生徒が問題を起こすと、一番先に矛先を向けるのは「学校、教育委員会、何しているんだ」と、こういう報道がされております。

しかしながら、辿ってみますと、そういう生徒さんたちの家庭が本当に親として子どもを育てる責任をもって教育、あるいは躾をしてきたのかと、こういうことがやっぱり不足

している家庭に多いというふうに私どもみております。

従って、この議論にもなっていますけれども、地域でも、子どもの教育はもちろん学校でやるわけでありますけれども、子どもの親について、若い親御さんたちの教育も同時に必要だというふうに実は考えさせられております。

それからもう1つは、大体60歳になると定年になって、家庭にいる人、あるいは次の仕事をやる方、いろいろありますけれども、その中でやっぱり家庭にいる退職者、60歳以上の高齢者の方々は同じ世帯で、2世帯、3世帯で同じ家庭の中で生活をしている場合には直接孫の面倒をみているという、そういう家庭もあります。しかしながら、子どもと別居をしていて、孫については、時々しかおじいちゃん・おばあちゃんと顔を合わせられないという、そういう環境にあります。それについては、昨日の朝のテレビで、途中から見ましたけれども、退職した60歳以上のおじいちゃん・おばあちゃんを集めて、孫の育て方の講習をやっているという、地域はちょっと途中から見ましたから分かりませんが、そういう取組をしている地域も今、出てきております。

従って、そういう意味では、この13ページにありますように、地域主権の時代ということからすれば、その部分が、家庭の部分が本当に基本になっていくんだろうと思っておりますので、一言だけ感じていることを申しました。

(三村知事)

家庭ということの重要性ということを前田社協の会長さんからお話をいただきました。

その他、何かございませんでしょうか。

今日は、産・学・官・金融ということで、銀行協会の方から何か。銀行の方々にも一緒に御参画いただいていたので。

(青森県銀行協会 鷲見常務理事)

先ほどの御発表の中で、金融界の取り組むべき課題・役割について書かれておりましたけれども、まさにそのとおりかなという感じがいたします。

1つは、自らの業界の人財育成に取り組むこと。先ほど頭でっかちというお話がございましたが、どうしても知識が先行するような人財が多いものですから、そういった意味ではもうちょっと人間的なところを養成する、そういったことも業界としては必要かなという感じはしています。

業界といいますか、金融界として取組も若干行っております。資料6の方に多少載せております。本日のタイトルは「あおもりを愛する人財の育成」と書いてはありますが、青森じゃなくてお金を愛する人財の育成を行っております。そういったような形でしか今のところ貢献できないような状況ですけれども、できる限りお手伝いをさせていただきたいなと思っております。

(三村知事)

ありがとうございました。

このパートの最後というところで、加藤先生、メンバーでございましたし、やはり大学人として一言いただければ。

(弘前大学 加藤研究・産学連携担当理事)

大学というよりも私個人の考えでちょっとお話させていただきます。

人間力とか生活力の大切さということが基本的なところにあるかと思います。私は、学校教育が大切だということもあると思っております。その中で教科を考えた時、家庭科というのは非常に重要だと認識しております。その教科があまりにも、やはり進学の問題とか何とかでおろそかにされているのではないかと。要するに、家庭科そのものの内容を見れば、まさに人間力、生活力を身に付けさせる教科なんですよ。それをなぜもう少し実効といいますか、中身のあるものにして時間数を増やしてやっていかないのか、それが不思議なんですよ。やはり、これぐらい問題になっているのであれば、そういうところをもう少し重要視していくべきではないかというのが私の考えです。

あと、基本的に大学といたしましては人財育成というのはいろんな意味でやっておりますし、高大連携もやっておりますし、理科離れに対してもいろいろな対策を大学なりにとっているつもりでございます。やはり問題はいろいろなリーダーの養成とネットワークづくりですね、これを確かにして、先ほど来問題になっております窓口、こういったところがはっきり分かるようにしていくというのが重要ではないかと考えております。

以上でございます。

(三村知事)

いろいろと御指摘、ありがとうございました。

柳沢さん、どうぞ。

(NPO推進青森会議 柳沢常務理事)

私も全く同じ意見で、ちょっと念押しのようなお願いになってしまうんですけども。

やっぱりリーダーってすごく孤独だと思うんですね。地域の中に入っている人たち、それなりに強いリーダーシップをやるから反発もくりますし、いろんなところで壁にぶち当たるんですけども、やっぱりそういう人たちが問題を解決していくためには横のつながりも必要ですし、同じ地域の中で自分の2番手、3番手を育てていくのも必要だと思うので、是非このネットワーク化というところをきちんと作っていくということをお願いしたいなと思います。お願いします。

(三村知事)

事務局として少しお話をしてくれれば。

(事務局：県人づくり戦略チーム 秋田チームリーダー)

県におきましても、柳沢委員と全く同様の認識を持っております。先ほど御説明いたしました「あおもり立志挑戦塾」では、現役の塾生を含めまして70名育ちつつありますけれども、そのみならず、県の関連分野でそれぞれリーダーは育てております。

例えば、「農起業トップランナー」や「創業チャレンジクラブ」など、各分野で育ったリーダーが一堂に会して情報交換をする場を持ちたいと考えておりまして、実は、まさに、今週の金曜日、この青森のリーダーネットワークの交流会を開催することとしております。これは今年度以降、継続していきたいと思っておりますし、またそういった交流会を開催する時だけではなく、リーダーが随時頻繁に集まって、そこから何か新しいビジネスや、生業が生まれるような、そういう環境づくりに努めてまいりたいと思っております。

(三村知事)

ということで、今、まさに動いているというようなところでございます。

ちょっと家庭科の話が出たので、本当の意味で専門家、教育長さんから。

(橋本教育長)

元家庭科教員としては大変応援をいただいております。

ただ、やはり家庭科教員が、きちんこの社会情勢やどういう子どもを育てるのかという広い視野の中で家庭科教育は今、どのような内容にしていかなければならないのかという研さんにつきましては、やはり足りない部分もあるのかなあというふうに思っておりますので、また大学の御指導をいただきながら家庭科教員の資質の向上に努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(三村知事)

教育長さん、ありがとうございました。

それでは続きまして議事の2、人づくり戦略推進に係る取組事例の紹介について、事務局、お願いします。

(事務局：県人づくり戦略チーム 奥田主幹)

それでは資料2の方を御覧いただきたいと思っております。A4の横置き資料でございます。平成22年度人づくり戦略チームの事業概要でございます。

こちらは、青い四角で囲んでおりますのが「あおもりの未来をつくる人財の育成」ということで、将来を担う子どもたち、それから「あおもりの今をつくる人財の育成」、緑色の

方が今お話に出ましたようなリーダーの育成といったことで分けております。

本日は、青い四角で囲んでいるもののうち今年度からスタートした2つの事業を紹介させていただきたいと思います。

まず、この表紙のページの取組戦略4、一番下にあります高校生のためのキャリア教育応援マガジンについて御紹介いたします。この資料2の一番最後の9ページの方を御覧いただきたいと思います。

こちらの事業は雇用対策の基金を活用して実施する事業で、事業内容は中央の四角のところにあるとおりですが、中核となりますのは、一番上に書いてあります県内外で活躍する様々な職業人50人程度を対象といたしまして、その職業についたきっかけや仕事上の苦勞、やりがいなどをインタビューし、その内容をまとめましたマガジンを作成し、県内の高校1年生全員に配布するというもので、これを年に1度、2年間の事業なのですが、毎年1回発行したいというふうに考えております。これを、是非高校生が自らの将来について考えるきっかけにしてほしいと考えておりまして、1回ちらっと見て終わりではなくて、例えば自分の将来を考える時に、そういえばこういう本にこういうことが書いてあったなとか、こういう人が載っていたなとか、そういうことを思い出して読んでもらえるような、できるだけ存在感のあるマガジンを作りたいと考えております。

一応、お手元にダミー本と申しますか、こういう青い冊子をお配りしております。こちらはあくまでも本日用のダミーということで、大きさとか厚さは完成品とほぼ同等のものなのですが、タイトルも一応「カセグンダ」ということで、稼ごうとか働こうとか、そういう意味の造語みたいなものなんですけれども、これもあくまでも本日限りの仮の名称ということでございまして、表紙・中身につきましても松山ケンイチさんとか、いろいろ書いていますけれども、これも今後交渉をする予定ということで、決まったものではありませんのでご注意くださいようお願いいたします。

いずれにしても、高校生に手にとって読んでもらえるような存在感のあるマガジンを作りたいということを強く思っております。こちらについては今年度と来年度の2カ年実施する予定としておりますが、3年目以降、基金は活用できないので、これを継続していく仕組みについても併せて調査をしていきたいと考えております。

御出席の皆様におかれましては、今後、本事業の展開にあたりまして取材でありますとか冊子の配布でありますとか、いろいろ御協力をお願いする場面もあろうかと思っておりますので、その際には是非よろしくようお願いいたします。

(三村知事)

なかなか面白そうですね？しっかりやりますので。

いよいよ、お待たせ、高校生の時間です。

(事務局：県人づくり戦略チーム 上野主幹)

続きまして、日本の次世代リーダー養成塾について御紹介いたします。

まず、日本の次世代養成リーダー養成塾の概要について、前座ということで御説明させていただきます。真打の登場にはもうしばらくお待ちください。

日本の次世代リーダー養成塾は、経済界や地方自治体を中心となって、全国の高校生を対象に世界に通じる人財の育成を目指したサマースクールで、夏休みの間、2週間にわたって福岡県の宗像市にあるグローバルアリーナを中心に開催されています。今年は高校生180名、実はこれに参画県というのがございまして、負担金を拠出して参画県になって、それぞれ推薦枠というのをちょうだいするわけなんですけど、本県は今年から参画県となりまして10名の推薦枠をもらって参加しております。参加費は10万円となっております。往復の交通費は塾の方から助成されているものです。

今年は4月7日から募集を始めまして、5月中旬に2度の審査、そして6月上旬に受講生を決定して、7月4日に事前研修を開催、7月28日の初日に青森空港で知事の出席をいただいて壮行式を行い、いざ出発いたしました。

実際のカリキュラムですが、これはお手元の資料5の方にも載っておりますけれども、朝7時から夜9時までびちっとカリキュラムが組まれておりまして、年々カリキュラムはきつくなってきているということを事務局の方もおっしゃっていました。実際は、私、最終日というか、最後3日間行ってきたんですけども、9時にはとても終わらなくて、多分、12時とか1時くらいまで、黄色になっているのがハイスクール国会、高校生を国会議員に模して、政党を創って、それぞれの公約を創り上げて発表して第一党を選ぶというような模擬国会を行ったのですが、その準備で夜遅くまで皆さんがんばっていました。詳しいことは後ほど報告があります。

どういうところでやっていたかということなんですけれども、このグローバルアリーナは、要は広い運動場を持った広大な合宿所です、運動公園みたいなところです。福岡県の一企業が創った施設ですけども、そこを使っております。向かって左下の体育館、これは柔道を広く推し進めた福岡出身の方を記念して造られた柔道場なんですけど、ここがメインの会場になっております。右の方が芝生を取り囲むようにロッジというか宿泊棟が並んでおりまして、常時数百人の大人や子どもたちが合宿をしているところです。

塾ではいろいろなメニューがありますが、一線で活躍される方の講義を聞くことにも大きく時間とっております。

これは8月9日の画家の千住博さんの講義の様子ですけども、講師をこのように車座で囲んでお話を聞いて、お話を聞いた後はこのように質疑応答の時間があります。この時間も30分くらい延長をして行われておりました。

ハイスクール国会は、先ほど言ったように、このようにそれぞれの政党を作って、これは宗像市から借りてきた、投票箱を使って実際に投票をして、第一党になったところの党首というか代表が内閣総理大臣という称号を得て、このように最後、所信表明をするとい



うことになっております。本県から参加した彼が総理大臣になりました。この子の顔をちよっとよく覚えておいていただきたいなと思います。

というふうなことで、ただいまと空から飛んでくるように青森空港に到着し、到着してすぐの写真です。8月10日に帰ってきました。

子どもたちからは、このような感想をいただいております。弘前工業の塩谷くん、木造高校の亀山くん。田名部高校の石澤さんは最年少の1年生でした。むつ工業の斉藤くん、青森南高校の久保田くんです。先ほど内閣総理大臣をやった生徒がこの久保田くんです。久保田くんにはご褒美というわけではないのですが、右下の写真は最後の日の夜に宇佐元恭一さんというシンガーソングライターのコンサート兼授業があったのですが、その時にステージと一緒に上がって、歌は歌っていなかったのですが、こういうふうには他の塾生の熱烈なコールに答えていたというシーンでございます。

残り2人ですけれども、藤田さんと多田くん、この後、報告しますということで、よろしくをお願いします。

(青森高等学校 藤田さん)

青森高校2年の藤田です。まず、私がリーダー養成塾に参加した目的です。私は、国際公務員になりたいと思っておりますが、一人では何も変えることができません。

そこで、将来まで高め合える友達をたくさん作りたと思いました。

2つ目は、高い志をもった高校生と話し合ったり、先生方の講義を聞いて自分の視野を広げるためです。普段、私は限られた環境の中で過ごしているので、一ヶ所から見たものの見方しかできていません。そこで全国の高校生と交流することにより、多様なものの見方を身につけ、自分を成長させたいと思いました。

次は心に残った講義です。明石先生は、以前国連で働いていたということもあり、私が楽しみにしていた講義でした。まずおっしゃっていたのは、世界はグローバル化していくということです。国境を超えて人・物・お金が流通するというプラス面もありますが、病気はあっという間に広がったりしてしまうというマイナス面もあります。そこで、これからは他国と手を取り合い、国境を超えたチームワークを作ってマイナス面に対処していくことが大切だそうです。

また、グローバル化によって、どんどん自分と違う人に会う機会が増えます。国際社会において、自分の意見をはっきり言えないという日本人が多いそうです。

そこで、世界で働くためには自分のやり方をしっかりと表現し、常に新しいやり方を考えることが大切だそうです。

次に、心構えについてです。いつも日の当たるところにしようとすることはできません。影の時期にどれだけ頑張るかが、その人間のこれからを決めます。影の時期に自分を高めていける人は、さらなる高見へと行くことができるし、諦めてしまう人は上に行くことはできません。

今回の先生の講義を通して、私は継続して努力することの大切さを学びました。また、今回の塾は国境を超えたチームワークを作ることへの第一歩だと思いました。

次は榊原英資先生です。これからは専門家と普通の仕事をこなす人との二極分化が進んでいきます。榊原先生も、これからはグローバル化が進んでいくと見ています。グローバル化した世界では、従来のように皆と同じ仕事をこなせる人ではなく、専門的な分野に長けている人が重宝されます。そこで、自分にしかできないことを身に付けるプロフェSSIONナルになることが成功の鍵になります。

グローバル化に伴い英語を学ぶことが不可欠になります。そこで、アメリカなどに留学をするのも手だと言っていました。

最後に、異文化の人たちと交流することについてです。まず、自分と違うことを歓迎しなければいけません。そして、日本のことをよく学び、海外の人に日本を説明できるようになることが必要です。一番大切なことは英語力を身に付けることです。先生から学んだことは、異文化交流を盛んにし、何かの分野で専門家になることが大切だということです。

先生たちの講義を聞いた後はクラスの皆でディスカッションをしました。ディスカッションで私は主張をする力を身に付けられたし、皆のいろいろな考えを聞くことができました。学校ではこのような授業がないのですが、どんどんディスカッションの授業を行った方がいいと思いました。

みそ汁ワークショップで私のクラスはモロヘイヤのスープを作りました。味はあまりおいしくはありませんでしたが、クラスの絆が深まったので良かったのかなと思いました。

次はハイスクール国会です。この塾のメインイベントで、発表日に向けて仲間と真剣に話し合いました。私の印象に残っているイベントです。

ハイスクール国会は高齢社会、地域活性化、高校教育、国際交流の4つのテーマがあります。1つのグループが1つのテーマを選んで、異なるテーマの2グループと一緒に政党を創って政策を考え、第一党を目指すというものです。

私は高齢社会のグループでした。高齢社会の日本で高齢者がもっと主体となるべきだと思ったからです。私のグループは国際交流のグループと組みました。党名は次世代シニア党、メインテーマは「ユニバー（婆）さん、エコロジー（爺）さんになろう」です。

結局、第一党にはなれませんでした。たくさんの人と議論をしい、納得のいく政策を創れたので満足です。

感想です。自分と同じ夢を持った人に出会えて刺激されて、将来の夢への憧れがますます深まりました。主張する力など、自分に欠けているものが分かり、克服のために努力しなければいけないということを知りました。リーダー塾は最高の仲間を作れるいい機会を提供してくれる数少ない場所だと思いました。

そして、青森県からの参加者が少ないと思いました。推薦枠は10人だったのですが、今回の参加者は7人しかいませんでした。こんないところなのに参加しないなんてもったいないです。是非、もっと参加者が増えてほしいと思いました。そして、自分の価値観

が大きく変わりました。素晴らしい仲間を見て、今が努力しなければいけない時だと気づきました。

リーダー塾での経験は、今後の生活に本当に役に立つものだと思うので、活かしていきたいと思います。

塾の様子です。

最後に、私にこのような素晴らしい機会を与えてくださった全ての方々に感謝して、発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

(青森高等学校 多田さん)

青森高等学校3年の多田健人です。

先ほども言っていましたが、7月28日から8月10日の2週間、第7回日本の次世代リーダー養成塾に参加してきました。

今回、このリーダー塾に参加したきっかけというのは、祖母が新聞からこの記事を見つけてくれて、その後、母に勧められ参加することを決めました。

それまでリーダー塾というものの存在を知らなくて、名前を聞いても何をするとおこなのかという不安があったのですけれども、パンフレットなどを見て、とても参加したくなるような内容でした。

今回、参加するにあたって、ただ行くだけでは意味が無いと思ひまして、行く前に参加目的を決めました。1つ目は、全国の高校生との対話ということ、2つ目は全国に友達をつくること、3つ目は世界で活躍する講師の講話を聞くということです。

この3つで共通しているのは自己改革ということで、全国の高校生が一体どのようなことを考えているのか、また自分に何が足りないのか、自分も考えることはたくさんあるのですが、それには一体何が足りなくて、どこが自分で間違っているのかなどを確認するために参加したいと思っていました。

2週間で講義は23個あったんですけども、その中でも2つ私の心の中に残った講義を紹介したいと思います。

1つ目は中村さんの講義ですが、この講義から私が学んだことというのは3つあります。まず、この講義を聞き終って、私がある時に悩んでいた将来への夢に対する不安を解決してくれた内容でした。

2つ目に、これは中村さんがおっしゃっていたことなんですけれども、今できることは限られているかもしれないが、その限られた範囲の中で最大限に今の自分ができることをすることが大事なんだ。これは聞いた時に僕も納得しまして、これから帰った後、結局自分ができることは本当に限られてくると思うのですが、その場所でどのように、そしてどのくらい自分の力が発揮できるかというのが本当に重要なんだなということを思いました。

そして3つ目なんですけど、自分のことを支えてくれた人、その人たちのために将来は恩返しという形で感謝をする。これは地域活性化ということにもつながると思うのですが、

自分を育ててくれたのは自分の地元の人たち、家族など、本当に多くの人が自分に関わっていると思います。やっぱり、その中で育ってきたので、将来は恩返しという形で周りの人に感謝をする、そういうことが地域の活性化にもつながるのではないかなと思いました。

そして2つ目は、元マレーシア首相のマハティール・モハマド先生の講義です。私たちが日本人であることに誇りをもつこと、自身を持ち自分の足で行動すること。リーダーになるには過去の歴史を学び、二度と同じ過ちを繰り返さないこと。他人の言葉に耳を傾けること。

マハティール先生がおっしゃっていたことに1つショックを受けたことがありまして、マハティールさんの政策であったルックイースト政策、それは戦後の日本の、より民主主義的になった日本人の心や、そういうものを学びたいということで作った政策なんですけれど、今の日本は学ぶべきではないと、そうきっぱりおっしゃいました。それを聞いた時は、本当に日本人として残念な気持ちになりました。

ただ、マハティールさんは、その解決策も一緒におっしゃっていらして、日本は世界のバランスを取る本当に重要な役割を持つ国だということをおっしゃったんですね。それは、やっぱり私たち、次代を担う若い人たちが、いかに日本を引っ張っていくか、その重要性を学ぶことができました。

これはディスカッションの時の写真です。ディスカッションでは、まず最初にクラス内で小グループに分けてお互いの意見を言い合います。そして、その小グループの中でまず1つの意見をまとめます。そして、それをホワイトボードに書き留めていって、最終的には全体の意見としてまとめます。

ここでもう1つショックなことがあったのは、1回目のディスカッションの時、周りの人がどんどん自分の意見を出していくということ、それに対して僕はまずびっくりしまして、そして言うことが的確と言いますか、しっかりした意見をもっていました。学校ではそういうことがあまりなく、そういうことに刺激を受け、これからもっと自分の意見を出していくという、いいきっかけになったと思います。

これはリーダー塾の様子です。

左下の写真なんですけれど、左の方は、僕のクラス担任の先生で、資生堂の方です。右の方は、学生リーダーとあって、担任の補佐みたいな感じなんですけれど、東京薬科大学の人です。

2週間を終えて、まず仲良くなった友達から自分の短所や長所を面と向かって言い合えるような友達ができて、自分の再発見につながることができました。

そして、中村さんの講義の時にもあったんですけれども、自分の将来の夢に対する悩んでいたこと、それを解決できて、本当に今回参加して良かったなと思っています。

積極的に人と関わるようになった。これは本当に僕にとって大きな進歩で、この2週間の間で、やっぱりハードなスケジュールと疲れなどから、人間関係でいざこざが出てしまったりすることがあったんですけれど、クラス内での問題が発生して、でもやっぱりそれ

は2週間そのままにして終わりたいとは思っていたので、積極的にその問題に自分も関わって何とか解決しようと努力し、解決できました。

さっきのスケジュールにもあったんですけど、毎日が本当にハードで、夜も1時、2時過ぎちゃうんですね。でも、やっぱり次の日のことも考えると、やり遂げないと大変になるので頑張りました。でもこの濃い2週間は本当にとにかく楽しかったです。

最後になんですけども、熊本から参加したある友達がいまして、その友達からビデオレターをいただいたので、ちょっと流したいと思います。

<ビデオレター>

今回、一流の講師や他県のことについて学ぶこともあったんですけど、今回をきっかけに自分の県のことをもっと知ってもらえると思いました。実際に、青森県が今回一番人気で、例えば青森独特のなまり、本当に人気でした。これもやっぱり地域活性化につながればいいなと思いました。とにかく2週間、楽しかったです。ありがとうございました。

(事務局：県人づくり戦略チーム 上野主幹)

以上で日本の次世代リーダー養成塾の報告を終わります。ありがとうございました。

(三村知事)

本当に藤田さん、多田くん、ありがとうございました。とってもいい発表で、「楽しかった」と、この言葉は我々としても最大の喜びです。今日は授業の方もあったのにごめんね、ありがとうございました。

もう一度拍手をお願いします。

本当に未来に大変我々としてもいろんな希望を持てる発表というか、いいなと、若い人たちいいなと。若いからいいだけでなく、いろんなことを思い悩み、また自分で進んでいこうというそのことをとても嬉しく感じました。

それでは事務局から取組事例を2つ御紹介いただきましたが、この取組事例等への質問も含めまして、ここからは議事の3、意見交換及び情報交換に入りたいと思います。各団体の取組状況や取組を進めていく上での課題、あるいは皆様方自身が思っている人財育成ということについての思い、そういったこと等をご自由に御発言いただければと思います。

よろしくをお願いします。はい、体育協会の方。

(青森県体育協会 武田理事長)

体育協会の武田でございます。

せっかくの機会でございますので、簡単に3点お話ししたいと思います。

まずスポーツということでございますが、やはりスポーツは、ある意味、やはり人づく

りそのものだと思います。先ほども躰とかそういう問題も出ておりましたけれども、スポーツをする中で人間関係を形成して、あるいは上下関係といいますか、規律といいますか、そういうものも養っていけるものだと思っております。

それから2点目は、これはスポーツの世界でもそうなんですが、根性とか、それからそういうものだけでは済まないような時代に入ってきています。スポーツの世界では、現在、スポーツ医科学という分野が非常に重要視されてきています。従って、感じるところはITですとかメカですとか、そういうものに強い人間がこれから必要なのではないかというふうに感じております。

3点目ですが、やはり何も経験をしたことがないとか、知識がないとか、そういうことであれば発展性がないわけで、新しい知識、先端の知識とか、あるいは未知の経験をさせるとか、そういうふうな形をする中で新しいものの考え方とか行動が出てくるのではないかなという感じがします。

先ほど高校生の方が自分の経験をされたことの中で「良かった」というふうな話がありましたが、まさしくそういうことであるんじゃないかなという感じがしております。

以上です。

(三村知事)

ありがとうございました。では、PTA連合会の方から。

(青森県PTA連合会 飯田会長)

青森県PTA連合会でございます。

先ほど、家庭が問題だということがございました。私たちの活動の基本というのは、やはり教育の原点は家庭であるというのを自覚してやっつけていまして、現在、親の質の向上と、将来親になる子どもたちの躰とか逞しさとか、そういうことのために活動をしているわけでございます。そういたしますと、やっぱりPTAこそ人づくりの場だなというふうに私たちは思っているわけで、現在、活動としては食育とかノーテレビデーとかノーゲームデーをつくって、月に1～2回でもいいのでテレビとかそういうものから離れて、親子での会話とか読書をするようにという活動など、いろいろ活動をしているわけですが、その中に、やはりいろんな最近問題になっているモンスターペアレンツとかいうのがありますけれども、そういう方というのは本当に少ないんですけれども、その言葉が出ると全ての保護者がそういうだと見られて本当に残念なんです。その方のためにもやっぱり我々は勉強会を設けているわけです。しかし、やはり、多分学校の関係もそうかもしれませんけれども、問題をもっている保護者というのはなかなか勉強会とか参観日というのにはなかなか来ないので、なかなか我々も苦慮しているわけですが、それでも全員に配布する広報誌等でいろんないいものを配布しています。でもなかなか難しいものだと思うので、そういう方々の教育というのはやはりPTAではなくて、例えば妊婦になった時の妊婦健診

の時に、将来親になるための何かとか、子供が生まれて何ヶ月健診の時に、またそれなりの何かの研修をすとか、そういうふうにして徐々に、徐々に積み重ねていくしかないのかなという、そういうのも必要かなというふうに思っています。もちろんPTA頑張りますけれども、やはり皆さんの力で問題ある方の教育をしていかなければならないなというふうに私なりには感じていますし、もし皆さんの方で、こうすればいいんじゃないのという御意見等ありましたら伺いたいなと思っていました。

以上でございます。

(三村知事)

ありがとうございました。

小山内さん、お願いします。

(あおもりNPOサポートセンター 小山内副理事長)

あおもりNPOサポートセンターの小山内と申します。よろしく願いいたします。

何点かございます。NPOを何とか地域に根付かせたいと思って頑張ってきて12年になります。ところが、特に今、私たちは今まで子どもたちにアートの風を吹かせようとか、子どもたちと一緒に何かしらものづくりをしてみようとかと思ってやってきたんですけど、学校側の方からNPOに対してアプローチがほとんどないという状況が少し悲しい感じがします。

今回も、私たちが今、浪岡の廃校を借りていろんな活動をしているわけですが、近くに浪岡高校があって、浪岡高校さんの方に「一緒にこうこう、こういうふうな事業と一緒にやりませんか」と言ってみました。イエスもノーも返ってきませんでしたけれど、でもまあ、やってくれるんじゃないかなと。何をやるかと思ったかは、森を整備していこうと、近くの森、私有地ではあるんですけど、非常に広い森が手入れされないままに残っている。かつては通路もついたのでしょう。今は草ぼうぼうです。

この間、私たちのNPOのメンバーで草刈りをしました。そこにツリーハウスを造ろうという計画になりまして、ツリーハウスを子どもたち、特に高校生たちと一緒に造ってみようじゃないかというふうに今、進めているところです。

森というものがいかに私たち人間にとってプラスになるかと、今、森林セラピーというものがかかなり注目されている状況で、ただもう1つは全国的に今、冒険の遊び場づくりというのが高まっております。これが一番私たちがこれから進めていく上で大事なことの1つなんですけれども、要するに、子どもたちに冒険をさせる、あるいは遊ばせる、それがいかに危険であるかということと、いかに大事であるかということの両輪を大人は考えていかなきゃいけないだろうと。今の子どもたちを後ろから押すと、頭からそのまま、手を突かずに倒れてしまうという子どもが多いんだそうです。それだけ自分たちにセキュリティー能力が無くなっているといえますか。だから、何が危なくて、何が危くないのかとい

う、そういう危険を感じる力が今の子どもたちにない。なぜかというと、大人がそれを全てシャットアウトしているからですよね。少しでも危なければ全て周りを囲ってしまうところがとても問題ではないかと。私たちは擦り傷、切り傷が絶え間ない子供時代にあったわけですが、それすらも付けると親がクレームを付けていく。あるいはそれに対して先生方が毅然とした態度を取れない状況になっているかもしれません。そういうことがとても問題で、やはり自分たちの子どもたちを先生に預けたら、あるいはそういう冒険をしたいと思ったら何とか手を貸しながらやってみせると、そういう場づくりがとても大事なのではないかと。

今の森も斜面があって、そこにロープでも張って、泥だらけになってそこを上ったり下りたり、木の間を潜り抜けて走り回ったりするというので、そこにいかに危険がたくさんあったり、あるいは面白さがあったりということ子どもたちに、私たち自らが危険を察知しながらも教えていく必要があるのではないかなと、そういうことがこれから私たち大人はそういう任務を担っているのではないかなと。

ですから、子どもたちが今、先ほど高校生たちがたくさんいい経験をなさいました。すごくいい立派なお子さんたちだと思いますが、でも、地域を愛する、青森を愛する、あるいは自然と共にある、そういう意識がまだまだもしかすれば足りないかもしれない。少し頭でっかちになってはいまいかと、少し危惧を感じたりもします。

ですから、子どもたちが私たちと一緒に危険を察知しながら、なおかつ自分たちの町を愛していく、そういうことに対してNPOも、それから学校も、産業も、行政も、皆手を取り合って子どもたちを守りながらも暖かく見つめながら手を携えていくと、囲いはしないと、そういうふうなことができはしまいかなということ今、悩んでおります。

もう1つ、この本ですけど、この「カセグンダ」は、私は反対いたします、タイトルがあまりにも露骨過ぎると私は思います。できるのであれば、「ミガクンダ」ぐらいがいいかなと。そのくらいだと思いますが、よろしく願いいたします。

(三村知事)

いろいろと御意見をいただきました。「カセグンダ」より「ミガクンダ」とか、いろいろ、その辺はまたいろいろと考えて。

今日、あと御発言をいただいている、じゃあ山本さん。

(青森県建設業協会 山本事務局次長)

建設業協会でございます。企業団体でございますので、私どもが人づくりで抱えている課題を若干申し上げたいと思います。

当然、企業でございますので、雇用の場を提供して、給料をお支払いして、可処分所得を使っただけでキャリアメイク、キャリアアップにつなげていただくということを想定しているわけでございますが、そのサイクルがちょっと途切れ気味なのではないかというのが企業側としては考えております。



どこで途切れているかという、よく言われるのは就業時、就職時でございますね。これは就業する側、あるいはご家庭側と雇用する企業の側とでミスマッチがあるんじゃないかという指摘が常々あるわけございまして、それを解消する一助になればということでインターンシップ等も、現に今日もやっているわけですけれども。

それをやっているにも関わらず、就職後の離職率が非常に高いと。これは高いという前にインターンシップ、私どもの会員企業にも参加してやっていただいているんですけれども、企業自体に採用計画がないんですよ。採用計画がないけども、インターンシップは協力していますよと。つまり、職業体験をしてもらおうと。私どもは建設業ですけれども、建設業というのはこういうものだよということを知っていただくと。それだけに留まっておいて、そこで会社のその時の社長さんとコミュニケーションが取れて就職すれば、その後でそれが役立つんですけれども、そういうサイクルはもう既にないと。

ですから、例えば、インターンシップをやらなかった企業に就職をする、あるいは同業の企業に就職するにしても、やっぱりそこで若干ミスマッチがあるわけで、就職してから2～3年後に離職するというケースは非常に多いわけでございます。

ですから、それはもう建設業だけに限らないんですけれども、雇用をして給与をもらって、それで生活を支えてキャリアをメイクしていくというサイクルが成り立たないということは、もう産業として成り立たないんじゃないかというぐらいの危機感を持っているわけございまして、これはここで申し上げてもしょうがない話でございますけれども、非常に切実に感じております。

もう1つは、じゃあ、しからば雇用の場をどうやって確保するかという時に、これは退職する方がいらっしゃれば、当然その後に優秀な人財を雇用したいというのは企業の立場でございますけれども、退職する方は生活がありますので、無理に辞めていただくことは当然経営者としてできません。従って、いていただける限りには雇用はできるだけ継続したいと考えているわけございしますが、その分、新規雇用はないという状況でございますので、結果として高齢化が非常に進んでいるんです。私どもの業界はもう平均の年齢は50をとっくに超えております。ですから、そこで世代交代のサイクルも途切れているんじゃないかと。就業時のミスマッチと世代交代のサイクルが途切れているのは、需要が無いからだというのが一番の安易な結論でございまして、その通りなんですけれども、何かそれで解決する方法がないかと非常に悩んでいるのが現状でございます。

以上、報告させていただきました。

(三村知事)

大変、職の現場としての状況等を含めてお話をいただきました。我々としても産業政策の中で非常に考えなくてはいけない課題かなと感じたしだいでございます。

宇藤先生、今日せっかく生徒さん方も見えていまして、大変いい生徒さん方をお持ちですけれども。

(青森県高等学校長協会 宇藤会長)

このような大変貴重な機会を御提供いただきまして、本当にありがとうございました。

案内の方は保護者にいたしました。お金がかかるということで、どうしても保護者の方の理解が得られないと。たまたま学年のPTAの直前に案内がありましたので、PTAの集会の時に1年生、2年生にはそのような形で案内をしたんですけれども、多田くんの方は全く別に自分の方から探してくださったということで、親御さんに本当に感謝したいなと思っています。

実は、多田くん、帰って来てから、私何も言っていないんですけれども、「本当に日本は広いな、視野が広まった」という報告をしてくれたんですね。その報告の状況、話しぶりから「よほど充実した塾だったんだろうな」というのが伝わってくるような感じでした。

今、話を聞いていて、出発する前のことは私、2人とも分からないんですけれども、今のその立派な発表を聞いて、この2週間でかなり成長してきたんだなというのを本当に感じました。

先ほど、本人たちの中にもありましたけれども、せつかくのこのような機会をもっと多くの人に参加してもらいたいということで、どういうふうな形で他の生徒に今の成果、状況を伝えられるかなと考えているところです。

この間、たまたま生徒が発行する新聞の担当の者から、今回塾に行った時の感想や状況を伝えるような形で、全校生徒に伝えたいなという話をしていましたので、それもまた1つのいい機会かなと思っています。そのまま続けてやっていただければなと思います。

ありがとうございました。

(三村知事)

それは何とかなる。

時間もだんだん押してきたんですけれども、敢えてということがなければ、せつかく2人、多田さんと藤田さんがおります、私の方から突然ですけれども、未来という言葉に対してどんな思いを持っているか、我々に刺激を与えてくれ、刺激というか、未来。

(青森高等学校 藤田さん)

今の日本は、東京を中心にして結構回っていると思うので、もっともっと地方が力を入れて、地方でもっと活動が広がっていけばもっと明るい未来になると思います。

(三村知事)

ありがとう。

(青森高等学校 多田さん)

僕はハイスクール国会で地域活性化ということでハイスクール国会を進めていたんですけど、やっぱり、さっきも藤田さんが言っていましたけど、東京の一極集中化ということで、都会の方だけに情報なり技術などが集まってしまっているの、やっぱりもっとそういうのを地域に発信して行って、日本全体で協力して地域の活性化をしていければ本当に明るい未来になるなあと思いました。

(三村知事)

ありがとう。

もっと活発な意見をいただける状況でございましたけれども、一応時間でございまして、大変申しわけございませんがこのあたりで意見交換会を終了させていただきます。

事務局の方からお願いします。

(事務局：県人づくり戦略チーム 秋田チームリーダー)

事務局から特にございませんので、皆様、どうもありがとうございます。またゲストの藤田さん、多田くん、どうもありがとうございます。

それでは最後に閉会にあたりまして知事から御挨拶を申し上げます。

(三村知事)

私からも簡単に御礼を申し上げたいと思います。

特に藤田さん、多田くん、今日はありがとうございます。こうした会議に参加してみるのが、また、大人の会議はなかなか難しそうだなとか、いろいろ感じたかもしれません。

最後に2人に未来という言葉についてどう思うかということをお話聞かせていただきました。我々、青森県の未来に対して、特に知事という立場でございまして、大きな責任を持っていると思います。もちろん、先ほど建設業協会の方からも話がございましたが、いわゆる産業施策としての青森の未来のあり方、そしてもう1つ、自分自身は、「多田くん、頼むぞ、将来医者になってくれ」と、急にそういう話をしたんですが、命というんでしょうか、どういう仕組みで私ども青森県の命を守っていくか、青森なりの社会保障という仕組みというんでしょうか、命を守る仕組みということですけども、そういった未来のしっかりとした方向性と具体の絵を書いていくというんですか、そういったこと、もちろん目の前にある仕事としてそれを進めていくべきであると思っています。

しかし、その一方で、今日、こうして、そしてまた井口先生をはじめとして部会の方々には大変今回お手数をかけたわけでございますが、未来の一番肝心な部分は人であると私は常に思っております。いかに私たちが未来、今日来てくれた2人がこの青森だけじゃなくて世界、宇宙でもいいですけども、それぞれの人生を最大限に活躍できるような未来に対しての人財育成の仕組みというんでしょうか、育ち、育っていくための仕組みをどの

ように整え、提供していき、その中で最後はやっぱり自分自身で育っていくことだと思うんですけども、しかし仕組みを提供していく、作っていくのは私どもの大きな責任であると思っております。

なにとぞ、今回こうして第4回の青森県人づくり戦略推進会議ということでお集まりいただき、それぞれ自由にいろんな御意見をいただいたわけですが、今後も私どもといたしまして御参会の皆様方のみならず、青森県の、まさに青森力を結集して未来に対しての人づくりの仕組み、方向性を整えていきたいと、そのことを新たに決意しているしだいでございます。

今日は本当にまだ残暑厳しきおり、御多忙のおり、御参集を賜り活発な御意見をいただきましたことに感謝申し上げますと締めのご挨拶とさせていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

(司会：県人づくり戦略チーム 秋田チームリーダー)

以上をもちまして、第4回青森県人づくり戦略推進会議を終了いたします。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

(三村知事)

大変ありがとうございました。

※青森県では、“人は、青森県にとっての「財（たから）」である”という基本的考え方から、「人」「人材」などを「人財」と表しています。

この会議録でも、「人材」を「人財」という言葉で統一して記載しています。